

# 琉球大学学術リポジトリ

## 沖縄県外の中학생に対する沖縄での平和学習に関する実践研究

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学教育学部附属教育実践総合センター 公開日: 2008-02-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 本多, 正尚, Honda, Masanao メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/4667">http://hdl.handle.net/20.500.12000/4667</a>

## 沖縄県外の中학생に対する沖縄での 平和学習に関する実践研究

本 多 正 尚\*

### A Study of Peace Education in Okinawa for Non-Okinawan Junior High School Students

Masanao HONDA

#### はじめに

沖縄を訪れる観光客の多くは、亜熱帯の暖かい気候と美しい自然を求め、おそらくほとんどが沖縄でかつて行われた悲惨な戦争や、現在も揺れる基地問題等は想像しないだろう。しかしながら、近年平和学習の重要性が強調され(e.g., 藤田, 1988)、少しずつではあるが沖縄を平和学習の場所として、訪れる学校も増えているようである。

こうした沖縄での平和学習に対して、ガイドブック(e.g., 佐藤・本地, 2004; 沖縄協会, 2005)や指導案等も考案されているが(e.g., 沖縄平和教育文化資料センター平和教育研究委員会, 1984)、それらに対する評価に関しては十分といえない。

今回、他府県から沖縄を訪れた中学校の平和学習を視察・調査する機会が得られた。そこで、平和学習に対する評価の男女差、平和学習の施設への評価の差異等を中心に分析した。このような分析は今後平和学習を改善して行く上で貴重な資料となるものと思われる。

#### 対象と方法

##### 1. 調査対象

対象者は京都府内にある私立中学校の3年生のうち沖縄での平和学習研修旅行に参加した生徒、男子24、女子46名の合計70名であった。

##### 2. 調査方法

実施内容については実際の観察、教師からの聞き取り、および配布パンフレットから調べた。

これとは別に、無記名のアンケート調査をすべての平和学習が終了した研修旅行の第3日目の夜に配布し、翌第4日目の朝に回収した。尚、実施にあたっては、調査が任意であること、結果が教育・研究目的以外で使用されないことを質問紙に明記した。

##### 3. 調査項目

性別、学年、来沖回数、各施設の平和学習の施設としての適切さおよびその説明と案内(「悪い」から「良い」までの5段階評定)、バスでの沖縄本島内移動(「苦痛」から「快適」までの5段階評定)、宿泊施設(「苦痛」から

\*琉球大学教育学部

「快適」までの5段階評定)、食事(「悪い」から「良い」までの5段階評定)、事前指導(「不十分」から「十分」までの5段階評定)、戦争の悲惨さの伝わり方(「予想したほど悲惨でない」から「予想以上に悲惨」までの5段階評定)、平和学習の意義(「意義がない」から「意義がある」までの5段階評定)、平和学習の総合評価(「悪い」から「良い」までの5段階評定)、沖縄の印象(「つまらない」から「楽しい」までの5段階評定)、一番印象に残った施設名とその理由(自由記載)、改善点(自由記載)に関して、自記式アンケートで調査した。

#### 4. 解析方法

各項目について、頻度および平均を求めた。検定については、二項検定、二元配置の分散分析、フリードマン検定とダンの多重比較、フィッシャーの正確確率検定を用いた。

### 結果

#### 1. 実施内容

沖縄研修旅行は12月の冬季休業期間に3泊4日の日程で、希望者により行われた。1日目に嘉数高台、3日目に南風原文化センター、糸数壕、ひめゆり平和祈念資料館、魂魄の塔および米須海岸、平和祈念公園(摩文仁の丘、平和の礎、韓国人慰霊塔)、安保の見える丘の順で見学した(表1)。1日目の夜には宿舎で沖縄戦

表1 実施された内容と日程

日程	内 容
1日目	那覇空港着 嘉数高台 佐喜真美術館 戦争体験者講演(ホテル)
2日目	辺野古(立ち寄らず、バスからの解説のみ) 体験学習(希望により2コース) 美ら海水族館
3日目	南風原文化センター 糸数壕 ひめゆり平和祈念資料館 魂魄の塔/米須海岸 平和祈念公園 安保の見える丘
4日目	首里城 国際通り(自由行動) 那覇空港発

体験者の講演を聴いた。さらに、1日目に佐喜真美術館見学、2日目に体験学習と美ら海水族館見学、4日目に首里城見学を行った。尚、これらの見学には教員以外のガイドが同行した。

#### 2. アンケートの回収率

参加者合計70名のうち、68名(男子24、女子44名)の回答を得た(97.1%)。一部、無回答の項目あったが、その部分は欠損データとして、68名すべてを分析の対象とした。

#### 3. 平和学習に対する評価

平和学習に対する評価を分析するため、バスでの移動、宿泊施設、食事、事前指導、戦争の悲惨さの伝わり方、平和学習の意義、平和学習の総合評価、沖縄の印象について、全体、および男女別の平均点を算出した(表2)。バスでの移動と事前指導で4点を下回ったが、それでもすべて中間(どちらでもない等)である3点を上回った。尚、中間を除いて肯定側(良い等:5点、少し良い等:4点)と否定側(悪い等:1点、少し悪い等:2点)の全体の人数の1対1からのずれは、二項検定でどの項目でも有意に肯定側にずれていた。

表2 各質問項目の平均点

質問項目	男子 n=24	女子 n=44	全体 n=68
移動	3.46	3.59	3.54
宿泊	4.33	4.70	4.57
食事	3.50	4.41	4.09
事前指導	3.46	3.57	3.53
悲惨さ	4.21	4.48	4.38
意義	4.29	4.70	4.56
総合評価	4.08	4.68	4.47
沖縄の印象	4.50	4.77	4.68

#### 4. 男女差と来沖回数の比較

男女間では平均点が異なるように思えたので、(表2)、初めて沖縄を訪れたか否かを加えて、性別と来沖回数の二要因で交互作用を入れたモデルで分散分析を行った(表2-10)。その結果、宿泊(表4)、食事(表5)、意義(表8)、総

合評価（表9）について、男子より女子のほうが有意に高く評価していることが明らかになった。しかし、来沖回数や性別と来沖回数の交互作用については、有意差がみられなかった。

表3 「車やバスでの移動はどうでしたか？」

	自由度	平方和	平均平方	F値	P
性別	1	0.273	0.273	0.284	0.596
来沖回数	1	1.319	1.319	1.371	0.246
性別*回数	1	3.698	3.698	3.843	0.054
残差	64	61.578	0.962		

表4 「宿泊はどうでしたか？」

	自由度	平方和	平均平方	F値	P
性別	1	2.140	2.140	4.807	0.032
来沖回数	1	0.002	0.002	0.005	0.945
性別*回数	1	0.001	0.001	0.001	0.970
残差	64	28.490	0.445		

表5 「食事はどうでしたか？」

	自由度	平方和	平均平方	F値	P
性別	1	12.834	12.834	17.030	0.000
来沖回数	1	0.119	0.119	0.157	0.693
性別*回数	1	0.286	0.286	0.379	0.540
残差	64	48.232	0.754		

表6 「学校での事前の指導はどうでしたか？」

	自由度	平方和	平均平方	F値	P
性別	1	0.187	0.187	0.263	0.610
来沖回数	1	0.647	0.647	0.907	0.344
性別*回数	1	2.460	2.460	3.448	0.068
残差	64	45.647	0.713		

表7 「戦争の悲惨さはどうでしたか？」

	自由度	平方和	平均平方	F値	P
性別	1	1.123	1.123	1.416	0.239
来沖回数	1	0.400	0.400	0.504	0.480
性別*回数	1	1.754	1.754	2.210	0.142
残差	64	50.782	0.793		

表8 「平和学習としての意義はどうでしたか？」

	自由度	平方和	平均平方	F値	P
性別	1	2.647	2.647	6.525	0.013
来沖回数	1	0.091	0.091	0.224	0.638
性別*回数	1	0.062	0.062	0.153	0.697
残差	64	25.965	0.406		

表9 「全体として平和学習はどうでしたか？」

	自由度	平方和	平均平方	F値	P
性別	1	5.562	5.562	11.761	0.001
来沖回数	1	0.379	0.379	0.802	0.374
性別*回数	1	0.731	0.731	1.545	0.218
残差	64	30.269	0.473		

表10 「平和学習以外の沖縄の印象はどうでしたか？」

	自由度	平方和	平均平方	F値	P
性別	1	1.155	1.155	3.292	0.074
来沖回数	1	1.013	1.013	2.887	0.094
性別*回数	1	0.262	0.262	0.746	0.391
残差	64	22.453	0.351		

## 5. 各施設の比較

男女間で平和学習に対する評価等に差異が存在したので、各施設の評価に関しては（表11）、男女別にフリードマン検定とダンの多重比較を用いて行った。その結果、女子の平和学習の施設としての評価について、ひめゆり平和祈念資料館が嘉数高台（ $P = 0.00041$ ）、南風原文化センター（ $P = 0.036$ ）、安保の見える丘（ $P =$

表11 各施設に対する評価

施設名	項目	男子	女子	全体
嘉数高台	施設として	3.71	4.07	3.94
	案内や説明	3.42	4.02	3.81
南風原文化センター	施設として	3.79	4.25	4.09
	案内や説明	3.46	3.98	3.79
ひめゆり平和祈念資料館	施設として	4.00	4.73	4.47
	案内や説明	3.79	4.39	4.18
平和祈念公園	施設として	3.83	4.43	4.22
	案内や説明	3.57	4.07	3.90
糸数壕	施設として	4.17	4.43	4.34
	案内や説明	3.92	4.30	4.16
魂魄の塔／米須海岸	施設として	3.79	4.23	4.07
	案内や説明	3.58	4.05	3.88
安保の見える丘	施設として	3.67	4.25	4.04
	案内や説明	3.58	4.00	3.85

0.032) より、有意に良いと評価することが明らかになった。また、案内や説明に対する評価についても、女子においてひめゆり平和祈念資料館が南風原文化センターよりも有意に良いと評価することが明らかになった ( $P = 0.019$ )。しかしながら、男子については、有意差はみられなかった。

## 6. 印象に残った施設

男女間で印象に残った施設名を一つ挙げてもらい (表12)、それをフィッシャーの正確確率検定で比較すると、男女に有意差が存在した ( $P = 0.00050$ )。

表12 一番印象に残った施設名

施設名	男子	女子
嘉数高台	0	0
南風原文化センター	0	0
ひめゆり平和祈念資料館	9	15
平和祈念公園	1	0
糸数壕	6	16
魂魄の塔	2	2
安保の見える丘	2	1
その他	1	5

## 考 察

アンケートの結果では、事前指導、戦争の悲惨さの伝わり方、平和学習の意義、総合評価すべてにおいて良いと回答する方が多く、また平和学習の意義と総合評価に対しては、5点満中それぞれ4.56点と4.47点という高得点になり、概ね今回の平和学習が生徒に対して好評であったことが推測できる。また、移動、宿泊、食事、沖縄の印象についても、中間点を上回り、平和学習以外の部分についても満足度が高いと推測され、今回の旅行が全体として良いものであったと判断できる。

男女差については、意義と総合評価について、男子より女子のほうが有意に高く評価していることが明らかになった。これは今回のコースに取り入れられているひめゆり平和祈念資料館が、大きな要因と考えられる。このことは、女子のみでひめゆり平和祈念資料館の評価が他のいく

つかの施設より高いこと、女子の自由記載で「当時の同年代の女子の写真や体験談に深い共感を受けた」等との回答があったことから支持される。

ところが、これまでに沖縄を訪れたか否かに対する差異は、男女ともにみられなかった。これは、これまでの訪問が観光中心であり、平和学習に影響を与えるような戦跡見学等を行わなかったため、初回の生徒と平和学習に対する態度や知識に差異が存在しなかったことが一つの原因と推測される。

その一方で、印象に残った施設としては、女子で評価では平均点が一番高かったひめゆり平和祈念資料館より、糸数壕が一番印象に残ったと答えた人数が一番多かったことは、注目に値する。糸数壕に対する自由記載では、「暗い」や「怖い」等の意見があり、平和学習の施設としてより、そうした感情が優先されてしまった結果だろう。

改善点に関しては、糸数壕に対する自由参加を求める意見が少数ではあるが存在した。これは上で述べたような「暗い」や「怖い」等の感情が理由と考えられ、今後はこうしたものに対する対応が求められると考えられる。

## 謝 辞

本調査に協力をいただいた中学校の生徒ならびに教職員の皆様に心より感謝の意を表す。

## 引用文献

- 藤田秀雄 (1988) 平和学習の意義と課題. 藤田秀雄 (編)「平和学習入門」pp. 7-64. 国土社, 東京.
- 沖縄平和教育文化資料センター平和教育研究委員会 (1984) 平和教育の実践集II. 沖縄平和教育文化資料センター・沖縄県高等学校教職員組合, 沖縄.
- 沖縄協会 (2005) 平和学習ハンドブック清ら島沖縄改訂増補版. 沖縄協会, 東京.
- 佐藤・本地 (2004) ビジュアル版平和博物館・戦跡ガイド3 沖縄県平和祈念資料館と戦跡めぐり. 汐文社, 東京.